

小牧市民病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (承認番号)	アミノ酸加糖電解質輸液（ビーフリード®輸液）の点滴時間が <i>Bacillus cereus</i> によるカテーテル関連血流感染症発症率に与える影響に関する検討（251026）
当院の研究責任者 (所属)	宮川 佐和子（薬局）
他の研究機関および 各施設の研究責任者	森岡 悠（名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部）
本研究の目的	末梢静脈カテーテルを留置している患者さんやアミノ酸製剤を投与されている患者さんでは、 <i>Bacillus cereus</i> という細菌による感染症の発症率が高いことが知られています。当院で採用されているアミノ酸加糖電解質輸液（ビーフリード®輸液）においても、 <i>B. cereus</i> によるカテーテル関連血流感染症の発生が多いことが知られており、その予防のために点滴時間の制限が盛んに行われています。これは <i>B. cereus</i> を輸液製剤に接種して増殖性を検討した研究の結果から、 <i>B. cereus</i> が増殖し始める前に投与を終了することで、カテーテル関連血流感染症の発生を予防することを目的としています。しかし、実臨床において 24 時間かけて点滴した場合と、12 時間未満の時間で点滴を終了した場合で、 <i>B. cereus</i> によるカテーテル関連血流感染症の発生リスクに差があるかを調べた研究は少ないです。そこで、2020 年から 2024 年にビーフリード®輸液を投与された患者さんについて、24 時間かけて投与された群と 12 時間未満で投与終了した群で、 <i>B. cereus</i> によるカテーテル関連血流感染症の発症率に差があるかについて調査します。
調査データ該当期間	2020 年 1 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日まで
研究の方法 (使用する試料等)	●対象となる患者さん 2020 年～2024 年にビーフリード®輸液を投与された患者さん ●利用する情報 生年月日、性別、主病名、既往歴、診療科、併用薬、ビーフリードを投与した年月日、血液培養検出菌名
試料／情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	該当なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	愛知県小牧市常普請 1-20 小牧市民病院 電話：(0568) 76-4131 担当者：薬局 主任薬剤師 宮川 佐和子
備考	本研究への参加は自由です。この研究への参加を断った場合や、参加に同意され、研究が開始された後に参加を取りやめることとなった場合においても、患者様は一切不利益を被ることはありません。また、研究への参加を同意した場合であっても、随時撤回することができます。